

○議長(倉又稔君)

伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。〔13番伊藤文博君登壇〕

○13番(伊藤文博君)

新政会の伊藤文博です。

本日は、新年度の重点施策としている3点について質問いたします。

重点施策というからには、企画、予算編成にかかわる方々の共通認識が絶対的に必要であります。それは枝葉末節のところではなく、根本的なところの共通認識でなければなりません。各施策はその根っこのところから発して、具体的施策となって枝を伸ばし、葉をつけ、花を咲かせることとなります。その根本的なところを伺うつもりで質問いたします。項目が多いので要点を絞って伺いますので、よろしくお願いいたします。

1、「日本一の子どもづくり」について伺います。

(1)「子ども一貫教育方針・基本計画に基づく施策の展開」についてであります。

①「日本一の子どもを育てる」について、最も重要なことは何であると考えますか。

②それを推進するための、学校、家庭、地域での具体的展開をどのように行うのでしょうか。

(2)「次世代育成支援行動計画に基づく子育て支援の充実」について伺います。

①子育て支援の最も重要なポイントは何であると考え、計画し、実践していますか。

②実際に親が求めている子育て支援に対して、現状の課題をどうとらえていますか。

(3)根拠の異なる2計画ですが、目指す方向は1つであります。整合性。連携はどうでしょうか。

2、「交流生き生き元気なまちづくり」について伺います。

(1)「ジオパークを核とした交流観光の促進」について。

①「ジオパーク戦略プラン」の策定中ですが、戦略の核となるものは何でしょうか。

②どのように見せるのか(見せ方)であります。

③どのように楽しませるのか(楽しませ方)であります。

④どのように学ばせるのか(学ばせ方)であります。

以上について、どのような工夫をしていくのか伺います。

(2)「交通ネットワークと新幹線駅周辺整備の促進」について。

①「不U便性の高い交通ネットワーク」の鍵となるものは何でしょうか。

②新幹線開通は、糸魚川市と市民にとってどのような意味があると考えますか。

- ③新幹線駅周辺整備の目指すべきところに対し、現在の計画に不足はないでしょうか。
- (3)「若者定住に向けた産業振興と雇用対策の充実」について。
- ①若者定住のために、糸魚川市に不足しているものは何でしょうか。
- ②産業振興のポイントは何と考えますか。
- (4)「住民主導の地域づくりの推進」について。
- ①住民主導の地域づくりに必要なものは何でしょうか。
- ②新しい公民館制度との関連はどうでしょうか。
- ③市民参画、市民協働のために何を変わらなければならないとお考えでしょうか。
- 3、「健康安心住み良いまちづくり」について伺います。
- (1)「地域医療対策と健康づくりの推進」について。
- ①現在の糸魚川地域の医療で、不足しているものは何で、充足する努力としてはどのようなことを行うのでしょうか。
- ②地域医療に携わる関係者を増やすための施策としては、どのような計画がありますか。
- ③医療従事者の生活環境整備について、どのように考えますか。
- (2)「予防医療の充実」について伺います。
- ①具体的な施策にはどのようなものがありますか。
- ②施策を有効に展開するために方策はいかがか。
- (3)「学校等公共施設の耐震化と生活に密着した基盤整備の推進」について伺います。
- ①生活に密着した基盤整備とは何か。
- ②情報基盤整備を活用した生活の利便性向上はどのように図るのか。
- (4)「廃棄物最終処分場の適正化の推進」について。
- ①一般廃棄物、産業廃棄物最終処分場の今後の整備方針はどのようになっていますか。
- ②整備に必要な費用の財源はどう考えますか。
- ③地元との協議状況はどうでしょうか。また、下水道、廃棄物等の処理・処分施設に関わる今後の地元対応をどのように行っていくのでしょうか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の日本一の子どもづくりにつきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目の1つ目、戦略の核につきましては、糸魚川ジオパークの象徴であるヒスイと、糸魚川静岡構造線の断層であると考えております。

2つ目の見せ方につきましては、訪れる方の興味に応じたモデルルートを設定いたしております。

3つ目の楽しませ方につきましては、本物を見せて、触れて、理解させることが重要と考えております。

4つ目の学ばせ方につきましては、糸魚川ジオパークは本物の教材を活用した学習ができることをPRし、児童生徒の体験学習の受け入れや、地学系学科を持つ大学の研修等を誘致していきたいと考えております。

2点目の1つ目ではありますが、当面の目標といたしまして、国道8号東バイパスの大和川押上間の供用開始や、中央大通り線の国道148号への接続、及び北陸新幹線の開通と考えております。

2つ目につきましては、首都圏、近畿圏への時間短縮効果や、新幹線駅を中心といたしました交通結節機能の強化による利便性の向上、ジオパークを訪れる観光客など交流人日の拡大による地域活性化の機会であると考えております。

3つ目につきましては、平成13年と14年に策定した駅周辺整備構想と計画に基づき、新幹線駅1階部分の利活用を加え、当面、金沢開業に向けた計画により整備を進めてまいります。

3点目の1つ目ではありますが、若者が求める業種や職種が不足していることと、賃金水準であると思っております。

2つ目につきましては、企業の売り上げ、生産高の増加が雇用に結びつくことから、引き続き市内企業の訪問活動を行い、情報の収集と提供に努めるほか、中小企業向け資金貸付事業も継続してまいります。また、ジオパーク振興基金貸付制度、ビジネスチャンス支援事業など、新たな支援制度を導入してまいります。

4点目の1つ目につきましては、地域づくりを進めようとする地域の盛り上がりが必要であり、地域をまとめるリーダーの存在、行政からの情報提供やアドバイス、そして適切な支援制度等も必要と考えております。

2つ目につきましては、公民館制度の見直しにより地区公民館の役割として、新たに地域づくりを取り組むことが可能となりましたことから、市と公民館が連携をいたして地域づくりを支援してまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、今まで以上に職員が積極的に地域に出向き、地域と行政との情報交換、意見交換をすることが必要であると考えております。

3番目の1点目の1つ目につきましては、地域医療で最も不足しているのは、医師と看護師であると思っております。

2つ目の施策であります。医師につきましては、医師確保対策補助金交付事業や医師養成修学資金貸与事業などを継続するほか、医師派遣先の富山大学などへの要請活動も継続してまいります。看護師につきましては、医療技術者修学資金の制度を継続するほか、新たな取り組みといたしましては、医療機関と協議してまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、女性の医師がふえていることと、看護師確保のための保育環境の整備など、働きやすい環境づくりが必要と考えております。

2点目の1つ目につきましては、疾病の早期発見。早期治療のため、各種健康診査の実施やワクチン接種の支援、生活習慣病の予防と重症化防止のため、健康教室や保健指導を実施してまいります。

2つ目につきましては、各種健康診査の受診率向上のため、企業や各種団体と連携を図り、受診しやすい体制整備を行ってまいります。また、わかめを食べよう運動によるバランスのとれた食事の定着や、健康づくりセンターを中心に、運動推進員の養成と運動メニューの充実を図ってまいります。

3点目の1つ目につきましては、道路や排水路、公園、上下水道、ガスなど、日常生活に不可欠な施設であると思っております。

2つ目につきましては、新年度では電子入札システムと、議会では議会中継録画配信システムを実施する計画であるほか、今後は施設予約や買い物支援システム、住民票等の証明、発行など検討しているところであります。

4点目の1つ目の整備方針といたしましては、一般廃棄物最終処分場では、基本構想案を地元の理解を得ながら推進してまいります。

また、産業廃棄物最終処分場では、現在、日本乗境衛生センターに委託をいたしております。適正化の結果がわかり次第、地元及び議会の皆様方にご報告をし、適正化に向けてまいりたいと考えております。

2つ目の財源につきましては、一般廃棄物最終処分場につきましては、国の循環型社会形成推進交付金を活用し、産業廃棄物最終処分場については、市の一般財源で対処する予定であります。

3つ目の地元との協議であります。一般廃棄物最終処分場は、2月末に大野地区安全封策特別委員会から、12項目にわたって質問が提出されております。また、産業廃棄物最終処分場では、地元の環境保全委員会と解析の結果に基づいて協議をすることといたしてございまして、いずれも誠意をもって対応していきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくご報告申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

竹田教育長。〔教育長竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

伊藤議員のご質問にお答えします。

1番目の1点目につきましては、子ども一貫教育方針や基本計画の趣旨、内容を、市民の皆様にご理解していただくことが重要であると思っております。

そのためには園・学校の職員への周知をはじめ家庭や地域に向け、さまざまな機会を積極的に活用し説明を行ってまいります。

また、子ども一貫教育基本計画のリーフレットを、4月以降、全戸に配布する計画であります。

2点目につきましては、保護者等が子どもへの関心を高め、子育ての意義理解を深め、子育てに喜びを持てる支援を推進することがポイントであると思っております。

また、親が求めている支援策には、経済的支援、人的支援、相談的支援等があり、多様化する就業状況から、夜間、休日、病中、病後等における保育体制の充実に射するユーズが高まっている現状であり、これに対する財源的な問題、保育を行う保育士不足等が課題となっております。

3点目につきましては、子ども一貫教育方針基本計画を受けた形で、0歳からの子育て支援策を具体化したものが、次世代育成支援行動計画という体系になっておりますことから、整合性を図りながら子どもを育てるシステムを、より強固なものにしていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君...)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

日本一の子どもづくりからいきます。

平成23年度の重点施策では、日本一の子どもづくり。子ども一貫教育方針では、日本一の子どもをはぐくむ、次世代育成支援行動計画では、日本一の子どもを育てるというふうになっております。9月の一般質問で、このインターネット上で公開されている「子ども一貫教育方針をご理解いただくために」という文書を、わかりにくいということで質問させてもらって回答をいただきました。

そこには日本一の子どもをはぐくむことということで、日本一の子どもをはぐくむとは、日本一

の子どもをはぐくむシステムを整え、0歳から18歳までの一貫した考え方、方法で、熱意をもって市民総ぐるみで子どもの教育を推進することですと書いてあるんです。この日本一の子どもをはぐくむというところを、今の日本一の子どもづくりとか、日本一の子どもを育てるに変えても、全く一緒ですね。なのに何で3つも、違う言葉が使われているのか。

これは一番大もとになる、非常に大事なところですよ。意味が一緒だから、いいじゃないかという問題ではない。音が違う、キャッチフレーズでしょう、ここから発しているというところですから。いろんな計画の中で、そこに対する解説の文書の中で、いろいろな言葉が出てくるのは、これはいいと思いますけど、先ほどから答弁聞いていると、吉岡課長が出てくると、子どもづくりと言うんですね、こっちでは違うんですよ。まして、こども課の中で、2つの計画で言葉が違う、この辺をどう整理していくかですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

靄本こども課長。〔教育委員会こども課長靄本修一君登壇〕

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

説明いたします。

あちこちで使われている、一番根本になる言葉の定義が、それぞれまちまちで、非常にその後に続くものが、あいまいになっているというふうなご指摘だろうというふうに思います。こども課のほうでは、「日本一の子どもをはぐくむ」というふうな言葉を大事なキーワードにして、いろんな取り組みに生かしております。他の課の調整等もあろうかと思えますけれども、そのこども課の言葉を大事にしていきながら、他の課への働きかけ等を図りながら調整を図って、一本化を進めていきたいというふうに考えております。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君...)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

一番最初に、日本一の子どもとは何かというところから、そこから呪縛されて抜け出してないんですよ、だからしっかり整理してくださいね。

本題に入ります。家庭、地域、学校それぞれが、糸魚川市は日本一の子育ての仕組みをつくるんだ、自分たちがその一員だということを理解して、言葉としては、「日本一の子どもを育てる」としておきましょうか、これに深くかかわっていくんだという意識の醸成が必要になりますね。大も

とになるこのことを、どのように推し進めていくのか。かなり難しいと思うんですよ。先ほどちょっと教育長の答弁の中にもありましたけど、もう少し具体的にお答えいただけますか。

「議長」と呼ぶものあり]

○議長(倉又稔君..)

靄本こども課長。〔教育委員会こども課長靄本修一君登壇〕

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

説明いたします。

ちょうど1年前に一貫教育方針ができて、4月以降、全戸配布をさせていただき、いろんな機会に、そのパンフレットを持ちながら説明し、周知をし、そして理解を求めるような取り組みを進めてきました。手当たり次第で、なかなか計画的な周知の戦略的なものはなくて、ばたばたと進めてきたような経過がございます。

しかしながら、記録を見ますと各種団体等での説明19団体、それから説明の回数21回、そこに対象になっていた方々4,423人。もたもたとしましたけれども、精いっぱい周知に向けて取り組んできた経過がございます。その教訓等も生かしながら23年度、基本計画等の周知、説明等の計画を今立てております。

何よりも、まず園・学校の教職員への周知、それを優先して進めていきたいと考えております。教職員の研修会を全員参加という形で何日間かに分けて、必ず教職員はその基本計画の内容を理解し、取り組む方向等の確認をして学校に帰ってもらうというふうな位置づけをさせていただいております。

それから、家庭や地域に向けてというふうな取り組みなんですけれども、園、学校が、あくまでも中核になるんですけれども、やっぱり家庭の協力等も必要です。そんな意味合いから、市のPTA連合会の皆様方にご理解をいただきながら、どのように家庭の皆さん方に説明する機会を持ったらいいか。市P連の関係の方々ちょっと相談をさせていただいて、23年度の計画を位置づけ、実施していきたいというふうに考えております。

それから、地域のほうなんでございますけれども、やはり公民館とか、あるいは青少協とか、いろんな子どもたちを取り巻く地域の方々の団体等がございます。そのような方々にも連絡をとらせていただいて、いつ、どのような方法で説明をしたらいいか。学校のほうからの説明がよいのか、行政のほうからの説明がよいのか、時と場に応じた形で何らかの形で説明のほうに入らせていただきたいというふうに考えておりますし、さらに関係機関とか団体の皆さん方も大変多うございます。そのような方々にも積極的に、機会を求めて説明のほうに入っていきたいと思っております。民生児童委員、人権擁護委員会、各地区の公民館長さんの集まり、健康づくりや福祉団体など、それぞれの団体の皆さん方がおられますので、何とか計画的に説明のほうを1年間、精いっぱいまた進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

なかなか大変な作業になるかと思いますが、三者が一体となって、子どもを入れて四者が一体になって進めていかなきゃいけない。

そこで家庭なんですけど、現在の教育環境の中で家庭教育に大きな課題があるというのは、もうこれは周知の事実で、大きな社会的な課題にもなっていると。教育論を語るとちょっと長くなるので、ここは差し控えますが、端的に言うと、親になる覚悟が乏しいまま、親になってしまうという現状があるんじゃないかというふうに私は思うんですね。これは家庭教育の根本的な問題だと思います。これを打開するには、妊娠後、父親も含めてかわいい子どもの誕生までに親の啓発をする必要がある。もちろん、そうプレッシャーにならないようにあせらず、じっくりと自覚を育てて、覚悟を決めるところまでもっていかなければならない。だから0歳から18歳ではなくて、マイナス1歳から18歳の取り組みが求められる。そのマイナス1歳から0歳までの間というものに、力を入れた取り組みをしていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

靄本こども課長。〔教育委員会こども課長靄本修一君登壇〕

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

説明させていただきます。

一貫教育方針基本計画の大きな柱に、健やかな体の育成がございました。いろんな検討をする会議の中でも、伊藤議員が今おっしゃいましたように、妊娠期からという言葉が、非常にたくさん出てまいりました。誕生からでは遅いという確認を部会の中でも確認し、それからいろんな基本計画の中でも確認させていただきました。

そんな意味合いからしまして、今現在、親子健康係のほうで進めておりますマタニティスクールというふうなものが実施されてございます。年間12回ほど機会を設けて、いろいろ説明をさせていただきながら、大事な時期を丁寧に説明したり理解を得たり、それから子どもが成長するというふうな部分はどんなことなのか、親になるということはどうなるのか。そんなことも含めて、時間の中で精いっぱい、またみんなで考えていくような機会をつくって、充実させていきたいというふうに考えております。

用いますいろんな資料等もたくさんあるんですけども、そんな中にも一貫教育方針とか、基本計画の理念的な面、具体的な取り組み方法というふうなものもちょっとずつ盛りながら、時間をかけてじっくりと進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今、実施されている枠組みの中で取り込んでいって、それで賄えればいいんですけど、多分、難しいと思うんですよ。やってみてもらって、考えてもらってもいいんですが、私が言ったように、これは母親だけの問題じゃなくて、父親の問題が大きいわけですよ。母親が聞いてきて父親に、あんたこうやって言われたから、これ勉強してよって、これはなかなか男は受け入れんでしょうね。そこをどうするかというのは、相当市側も構えた取り組みをしていかないと、無理であろうというふうに思うんですが、そこについてもう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

靄本こども課長。〔教育委員会こども課長靄本修一君登壇〕

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

パパママ・マタニティースクールというふうなのは、マタニティースクールの回数はちょっと少ないんですけども、できる限り参加していただくような参加への促しを案内の中に入れるなど、ちょっと工夫を図ってまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先ほど答弁の中に、病後児保育や夜間保育、一時保育という話が出てきたんですが、これはこの一般質問の初日からいろいろ出てきていますよね。子育て支援の重要な施策であります。

これちょっと視点を変えると、一貫教育方針の大きな柱となってる愛着形成にも、大きな役目を果たすというふうに考えるわけですよ。大変な子育ての中で、一時保育により子どもを預かって

らって、用事を足したり余裕のある時間を過ごす。心も体もリフレッシュして母親も、これも一貫教育方針の中の重要な課題になっている自己肯定感ですね、これを母親自身が感じる。余裕を取り戻した心身で子どもに愛情を注ぐ、親子の間で愛着形成がなされるというような好循環が起きるといふふうに考えます。

このように子育てを助けることが、一貫教育方針の大きな柱の役目を果たしていくということが言えるんだと。基本計画が深く関連していくことに、具体的に着目していかなければいけないといふふうに考えますが、これはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

靄本こども課長。〔教育委員会こども課長靄本修一君登壇〕..

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

お答えいたします。

今ほどの環境づくり、それから就労、子育て支援の充実、いろんな環境の絡みの中でやっていくことが大事だと思うんですが、バランスのとれたといふような部分が、保護者がどのように感ずるかという部分のところ、ちょっと非常に難しい部分があるかといふふうに思います。そこらあたり保護者のニーズといいましょうか、就労体系の複雑化によりまして、どのようなニーズを持っているのか、どこまで市としてできるのか、ここはできないのかといふような部分のところも含めて、施策の事業の中に反映する部分は反映し、ちょっと無理な部分は、ちょっとまた計画的に進めていくといふような体制をとって、全体調整を図りながら進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ほかの人も質問しましたが、このところは財政的にも問題があると、課題があるということですけど、日本一の子どもを育てる、はぐくむといつて看板を掲げて、これはもうここに予算を投じていかなければしょうがないわけですよ、それを宣言したようなもんですね。

そういう意味で、一貫教育方針のその目的を達していくために、育成支援のほうも当然並行して重点を置いて、前倒しでやっていかなければいけない。日本一の子どもを育てますよと言ってるのと言っていないのとで、施策が一緒じゃおかしいと思うんですよね。企画のほうではどういふふうに考えてますか、この辺は。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕..

○企画財政課長(吉岡正史君..)

お答えします。

今ほど企画のほうでも、この日本一の子どもをはぐくむといったところに、どういうふう財源をふり向けていくかということだと思っております。私どもは非常に重点施策というところにつきましても、予算をできる限り確保といいますか、予算づけをしていきたいと。ただ、いろいろ住民要望もございますので強弱はありますけれども、やはりこういう柱になる分については、重点的に予算配分をしていきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

答えながら逃げ腰だよね、帰ろうとしている。しっかりやってくださいね。重点施策だと挙げててるのも、挙げてないのも同じじゃだめですよ。重点施策だと言うからには、やっぱり重点なんで力入れてもらわなきゃ、うたい文句じゃないですから。

例えば、今度、健康づくりセンターはぴねすがオープンしますね。ここを利用するにも母親の健康を考えて、そうすると一時保育なんかは有効になってくる。また逆に汗かいて、さっき言ったようにリフレッシュするというようなことで好循環が生まれる。古い考え方だと、子どもを預けてまであんたどこ行っとるわというようなことがないような、そういうおかしな話が出ないような社会理解の促進というのも図っていかなくちゃいけない。こういう意味で、広報活動が大事になってきますよね。こちらにもぜひ目を向けながら、施策展開してもらいたいと思うんです。一時保育をやってもらわなきゃ、この話はどうにもならんのですけどね、ぜひやってもらうという方向でお答えいただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

轟本こども課長。〔教育委員会こども課長轟本修一君登壇〕..

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

現状を確認しながら、前向きに検討を進めたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

2番目、交流生き活き元気なまちづくりにいきます。

ジオパークを核とした交流観光の促進について、戦略プランの中間報告を我々はいただきました。読ませてもらいましたが、どうもぴんとこないんですよ。分析はしっかりしていた。データの羅列の中で、肝心の戦略がはっきり伝わってこない。9月の一般質問で、戦略には核が必要だということを書いて、それは断層とヒスイ、今、市長が言われたとおり、そのときも市長はそういうふうにお答えになりました。

ところが今回の中間報告では、そこがはっきり感じられないんですね。106ページに、「糸魚川ジオパークのメインテーマである断層、ヒスイを主眼に」という文書が出てくるんですけど、第1編の糸魚川ジオパーク戦略の概要では、全く触れられていない。9月の一般質問の後、市長はコンサルタントにも核について指示されたという話も漏れ聞いているんですが、どのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君)

まさにそのとおりなんで、概略については、かなり大まかにはまとめてあるんですけども、最終的に、例えば糸魚川がいうヒスイと断層について、後で出てきますけども、どのように見せて、楽しませるかというところが欠如している部分。そういう面では、きのうも打ち合わせさせていただきました。18日にも、また予定しておりますので、やはりそこら辺をしっかりとらえていただいて、提案できて、具体的にやはりその解決方法といいますか、普通のお客様に提案できるような形で私どもはまとめて、もっていきたいというふうな指導をしてまいりたいと、そう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

コンサルタント相手に課長も、どうも苦しんでいるような様子が今の答弁の中に出てくるんですが、やはり地元のノウハウを生かして、コンサルタントの専門的知識を生かしていくようなやり方をしていかなきゃいけないと思うんですね。

今話している核は、外から見たイメージです。外から見てわかりやすい、糸魚川は断層とヒスイなんだ。そこに行くと、こんなものがあるというイメージがわかりやすくあるということが大事ですよ。そこにプラス、まち歩き観光のような要素が、そんないろいろなものがプラスされていかなければいけないということなんです、核を明確にして、そこからの展開をイメージしていくと。

核の話は今したんですけど、そこからの展開をイメージしていくと、広がるように、糸魚川全体で。ジオパークも見れるところと、見れないところもしっかり差別化しながら、区別しながらということなんです、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君..)

来ていただくお客様の誘導方法は、いろいろあると思います。確かにジオサイト、24を活用するのも大事です。ジオパークの根源は、いつもお話のとおり、やはり文化だとか史跡遺産、そういうものに多面的に及びますので、具体的には食まで含めて私どもは考えております。

先般、1つの活用方法ですけども、妙高にスキーに来ていただいている団体が40人ほど、スキーとボードには乗らないと。ひいては、どこに行ったらいいかというオファーが来ました。そういう方に呼びかけて、当市に来ていただいて、今、話題の食になっているブラック焼きそばを食べていただく。そして100年の歴史以上にある古い酒造元を見てもらう。それから半日かけて、まち中めぐりをしていただきました。それも後でアンケートをとってありますけども、非常に興味を持たれて帰ったというふうに私どもは思っております。

やはりジオのサイトと既存の施設をうまく融合させて、やはり糸魚川を発信していくというのは、大きな課題ではないかなというふうに思っております。それをコーディネートしたリプランをつくっていくというのは、さらに大事な話なんで、そういうやはり魅力のものを提案していく。それが今後とも求められる、そういうふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

核という話をしたんですが、外から見た核。それから例えば永続的な土台としては、やっぱり学術的にしっかりしていかなきゃいけないという、そういう意味での核ですね。それから、市民総ぐるみのジオパークというようなスタンスというか、考え方というのが必要になってくると思います。

計画の中で、しっかりまたやっていってほしいと思いますが、それで見せ方、楽しませ方、学ばせ方という言い方をしていますが、これはそれぞれのノウハウのことを言っているようですが、私が一番最初に言いたいのは、きょうは根本的なところを聞くと言ってますので、まず、それはジオパークのことを考えるときに、計画して実践していくときに、常に意識していなければならないことである。つまり見せ方、楽しませ方、学ばせ方という概念、観念、視点で、ジオパークについて考えるくせをつけるということですよ。それは市の職員であろうと、民間でかかわっていく人であろうと、そういう意識を植えつけていくということをやっていかなきゃいけない。

これは理屈で言えばそのとおりです、わかります、そうですねと言うけど、実際に常に意識しているかどうかになると、これは非常に難しい問題です。まず、市の職員がリードしていってもらわなきゃいけないんで、そこのとこの考え方をしっかり全員の根っこのところに持ってほしいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

非常に大事な提案の仕方だというふうに考えております。特に、見せ方、楽しませ方、学ばせ方、ジオパークの場合は、一般的な観光とまた少し違いまして、やはり歴史、そこにある地質、鉱物、そういうものを少し地学的に学ぶという学習が、背後にはやはりあるのではないかなと。これは表向きは、なかなかそういうところにとっつきにくいですが、最後は、そこにぜひいってほしいというふうな意味合いで思ってます。特に見せ方の部分では、ルート選定だとか、やはりお客様のレベル、目的に合った提案の仕方。

例えば小滝のヒスイ峡とマイコミ平を1つ企画しても、貴重性という部分では非常に大事な部分です。ただ、アクセスの方法も違いますし、そこにある日常性だとか、近くにあるかとか、隔離された場所だとか、ふだんはよく行けるのかとか、そういう部分でも非常に相違点があります。そういうものをどうやって提案して、ちゃんとガイドしていくんだというのは大きな話になると思います

し、そこにはやっぱりガイドの力、インタープリターと言われるやはり案内人の力、少し興味がわいてお客様が持たれるというようなところでないと、非常に難しいといいたいでしょうか、そちらのほうがお客様は感動を得る部分がたくさんあると思いますので、そういう情報というか、提案の仕方をお客様にはしていくべきだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ジオパークで最後に1つ。多分ガイドさんの養成の数だとか、いろいろな外からの糸魚川に対するアプローチの数というのは、相当ふえてきてるんだと思うんですね。先ほど市民まるごとジオパークというような言い方をしましたけど、そういう意識を醸成していくには、それを市民にしっかりアピールして盛り上がらせていく、市民を乗らせるということが非常に重要になると思うんですけど、もう少し積極的にそういうことをやってもいいんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

ありがとうございます。

私どもは、さらに磨きをかけて頑張りたいと思うんですけども、現状だけ少しお話しときます。お客様に対しては、特に5感に感じてもらうというのが私は大事だと思います、特に糸魚川の場合、見る、聞く、さわるといった体験の部分です、それから味わうという、それが大きな1つはターゲットかなというふうに思ってます。私どもは接遇の中で、特に大事な言葉で思っておるのは、あ行の5段活用というのを常に考えております。

そういう意味では、お客様に知らないことを知識として得ていただくというのとあわせて、そこにはやっぱり探求心とか感動とか、関心が交わるような持っていき方をしなきゃいけない。ですからお客様と会話を楽しみながら、「はあ」とか「ほう」とかという言葉に変わっていけば、これは相手が興味を示したことだなというふうに常々思っております。

そういうものを大事にしていきたいなということと、それから近々のちょっと状況ですけども、サテライトオフィスを設置しまして、22年度の12月までで、訪問者が3,500人を超えております。そ

のうち統計をとってみましたら、観光者として来られている方が2,500人を超えております。もう一方、ジオパークガイドの皆さんに非常にご協力をいただいております。例えば一昨年といいますか、年が変わっておりますけど、21年は12件の要請がありました。ところが22年度は約8倍、95件、1,739人の方に対応していただいております。ということで、なかなか地域全体には広がりや、あるいはにぎわいは多少は見えてこない部分もありますけども、やはり中心部に対してのお客様の関心度は、高まっているなというふうに思われますので、そういう意味では、ぜひ私どもは粘り強いセールスをしていきたいと思っております。

去年でした、千葉の方ですけども、駅周辺をちょっとうろうろされておったんですけど、女性の方で、5歳ぐらいの男の子を連れておりました。どうしたかと言ったら、きょうも青海の浜に石拾いに来ました。石をたくさん持ってたんです。私が1つ持ってたのをあげたんですけども、もう年に何回も来てるそうです。5歳の子どもが、非常に石に興味を持つんだそうです。たくさん拾って学芸員に見てもらって、そのことだけでも楽しいということで、ヒスイが拾えて石の種類が多いこの糸魚川は大好きだと。たつた5つの子が、そう言ってるんですね。千葉の方でしたけど、こういう人が現実に糸魚川に来ている実態を、やはり私どもは自信を持ってお客様の拡大、誘客に努めてまいりたいと思っておりますので、いましばらくお力をいただきたいし、様子を見ていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

そういうことを、もっと積極的に市民にアピールしてもらって、高まりを導いていてもらいたいなと思っております。

交通ネットワークと新幹線駅周辺整備の促進について伺います。

車、人、それぞれの利便性、生活の場面による利便性というものがありますね。交通ネットワークを考えると、この辺はどのように整理して考えておられるかについて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕..

○都市整備課長(金子晴彦君)

交通ネットワークの整備ということでございますが、交通ネットワークには課題を整理して、目標と将来像を定め、また基本方針を立てて実現に向けての施策を定めて、それをまた検証していく

と、そういう形になると思いますし、当市においては交通ネットワークの基本方針というのが、大きな基本方針では3つ、十字型経済圏形成の拠点、それから都市内連携軸を生かした効率的で便利なまちづくり、それから、だれもが快適、安心して利用できる道路と公共交通の整備という、こういう大きな方針の中で、実現に向けた施策としては、それぞれ6つほど立てておりました、6バイパスと港の整備、それから4流域2ルート completion と機能の向上、都市計画道路網の見直しと早期完成、また、格子型ネットワークによる生活道路網の整備、公共交通機関の充実と結節機能の強化、それから人にやさしく安全な道づくりと。こういうような形の中で、それぞれ1つ1つ目標を立てながら、実現していく。それから5年なりの中期的な見通し、それから長期的な見通しを検証して、どういうふうな形で進んできたかを検証していく。そういうような形で、ネットワークを進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ハード面だけじゃなくてソフト面もありますよね。

バス路線についても担当だと思うんですけど、地域の声を拾い上げてこないと、なかなか利用者の声をバスに乗ってる人たちから拾い上げようとするのが難しいところがある。企画の地域担当との連携、情報交換というのも重要になってくると思うんですが、そういう会議というのは持たれていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕..

○都市整備課長(金子晴彦君..)

企画のほうでは地域に出向いて、いろんな意見を聞いておるところですけど、そういう中で当初の質問の中で、例えば今回はどこどこで、こういうバスについてお聞きしたいとか、そういう具体的なものがあれば、当然、私どもも出向いてお話を聞いて取り入れていますし、また、たまたまそういう話題が初めになくても、当然担当が行って聞いた中では、その辺についてこちらのほうへ情報を入れてもらった中で、またそれに向けて検証なり、いろんな意見を聞いた中で答えを返していく、そういうような方針をとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

基本的に横の連携をよくとって、やっぱり住民の声を生かしていただきたいということを言いたいわけですが。

ちょっと時間がないので、新幹線関係のほうに移ります。

駅舎のデザインについて議論されてきました。これは重要な問題ではありますが、しかし、駅周辺整備はもつと重要ですよね。新幹線開通が糸魚川市の発展に結びつくかどうかについては、駅舎のデザインよりも、その構造と機能性。また、それよりも駅周辺の活性化ということになると思うんですね。このあたりをどう考えているのかについて、これは市政全体を企画していく立場から、総務部長に答えてもらいたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕..

○総務部長(織田義夫君..)

お答えを申し上げます。

新幹線の駅周辺の活性化ということでありまして。当然ながら駅南口、それから北口もありますけれども、駅周辺整備ということで駅舎と一緒にパーク&ライドとか、そのものを整備していくということでありまして。今、旧糸魚川市で合併前に、その辺につきまして周辺の基本計画等、それから周辺の整備構想をつくっております。それに基づきながら、今事業を1つ1つ実現化をしてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

前回も言ったんですけど、平成13年度末に制定された駅周辺整備構想から既に9年たっているんですよ。その間に、新幹線沿線の駅の先進事例がいっぱい出てきてる。この整備構想の不足も、もう明らかになってきているんじゃないかと思うんですね。開通まで4年となった今、見直すチャンスはもう今しかないと思うんですけど、このまま成り行きにまかせて、9年前につくった構想があるから、

これでいくしかないんで、ただそれだけで進んでしまうんですか、それについてお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君..)

新幹線駅周辺の整備については、13年、14年につくりました周辺整備の構想、それから基本計画を核として、その中で今8、9年たっているわけですが、そういう中では若干この北口の広場の利用面積を、今、金沢営業までの間の縮小なり、それから、また南口では駐車場のパーク&ライドの若干規模といいますか、当初は250台を平面で110台ぐらいにして、様子を見ていこうというようなこともあります。

ただ、確かにこれは時間はたっておりますが、基本的には、これを核として進めてきておりますし、ただ、これだけをかたくなに守るのではなくて、当然、今大きな違いとしては、ジオパークの世界認定等による新たな要素も出てきております。そういうものを含めた中で、今、ここに載っとる構想だけではなくて、これはことしから従来のまちづくり交付金をジオパークに絡めて広げて、先ほど市長が申しました新幹線駅の1階の利活用とか、それから、これは駅周辺から根知のフォッサマグナパークまでの約1,000ヘクタールのエリアを、とりあえずエリアの中に取り込んで、またこの中で開業まで、それからジオパークをこれから進めていく中で、この中で取り入れるものは取り入れて、また変更なりするような形で。基本は基本として、ある程度これに基づく中で、柔軟に対応できるところは対応していきたいと、こういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

14年に定められたもので今まで進んできて、これをバイブルにしてやってきたわけですね。

だから今さら検討だ、変更だと言われてもというところがあると思うんですけど、しかし、やはり今、本来どういう開発をしなきゃいけないかという、整備をしていかなきゃいけないかというところを1回考えて、そして今やってる計画でいくと、ここが足りない、あそこが足りない。でも、このことはできる、これはできないというような整理をしながら、補えるもので補っていくということが必要だと思うんですよ。

もう今のこの構想や計画ありきでいって、だめなんだでは全く検討しない、100年に一度、または、

もう二度とないですよ、ジオパークと新幹線なんていう、そういうダブルポイントみたいなものは。ですから、これはどうしてもやらなきゃいかんと思うんですよ。どうですか、もう1回。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕..

○都市整備課長(金子晴彦君)

当市の新幹線駅は現駅併設の中で、面積的に、それから地形的に制限のあるところもございます。それから北口については、既存の商店を生かした商業中心、それから南口につきましては、今ある住宅地を生かした、大きな骨組みは、それに沿うとしまして、今申し上げましたように不足の面とか、それからまだまだこの辺は、こういうふうにご利用したらどうかというものも、いろんな形で複合する形で、古い形だけ猛追というか、それをずっとかたくなに、それ以外はだめだというつもりではありませんので、その辺は対応できるところは、柔軟に対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そのためにもいま一度、市民の声を聞く機会を設ける必要があると思うんですよ。

今ある構想でやっている立場からすると、またちょっと面倒なことかもしれませんが、しかしそれをやって、その中で、できることとできないことを整理していくということが必要だと思う。

やらなかったら100年の禍根を残すことになるでしょう。うまくやったら米田市政は100年語り継がれるかもしれない、そのぐらい重要なことだと私は思うんですよ。もう一度、この4年前の今だからこそ、もう1回踏みとどまってちょっと検討するということ。ぜひもう一度、市民の声を聞く機会を設けてもらいたいと思いますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

平成12年、13年は古いと言いますが、やはりその当ても市民の皆様方と詰めてまいったわけでございますし、今その方向でずっと進めてまいっております。また、新たに出てきてる問題についても、その中に織り込みながら進めてるわけでございますし、基本的な部分については、もう構想でございますので、そんなに細かい細部のものまで出てるわけではございません。コンセプト的にしっかりしてるものを、それを詰めてきておるわけでありませう。

そういう中で、このまちづくりの中においても、大きなやはりインパクトのある事業でございますので、北口、または南口といたしましては、今その中で、まだまだ市民の皆様方に声を聞かなくちゃいけない部分もある部分もございます。そういう中のものは、取り込んでいけると思ってるわけでありませう。そして新たな中においては、やはりこの北口のほうの駅前通り、アーケードの問題、電柱の地中化というのがあるわけでございますので、そういう中で、精いっぱい市民の声を聞かせていただきながら、市民の意向は、またその中で私は反映できるものと思っております。しかしながら、金沢開業という1つの区切りもあるわけでありませうが、まだまだそういう中においては、市民の声というのは聞ける部分も私はあろうかと思っております。

そういう中であっても、やはり基本的なものはまとめたという、そのときの皆様方に非常に熱心にご意見を賜ってるわけございまして、基本的にはそういう方向であります、時代、時代の中のものは、織りまぜながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

民間と一緒にやっていかないとだめな話ですから、やはり市民の声を聞くという姿勢はどうしても必要だと思います。今聞いていくということですから、場の設け方の問題もあるでしょうけれども、積極的に取り組んでいただきたい。

若者定住に向けた産業振興と雇用施策の充実ですが、産業の振興についてはどの自治体にとっても重要な課題であって、市と産業界が一体になった取り組みが求められる。商工会議所など民間団体との連携については、うまくいってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長金子裕彦君登壇〕…

○商工農林水産課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

うまくいっているかということでございますけども、すべて100%うまくいっていると言われると、なかなか難しいところもありますけれども、私どもの市、あるいは県等も含めまして、それぞれの役割分担の中で商工団体の皆さんとも連携をしながら、市内の産業振興に努めるということで、連携を図る取り組みを進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

取り組みはしてるでしょうね。ただ、やはり深く連携していてもらいたいということですよ。民間の意向も含めて、いろいろ民間のノウハウも含めた産業振興を図っていかないと、1つには働く場、必要な賃金などというものも当然浮かんでくるんですが、今の若者たちの志向性というのはさまざまですよ。労働環境の問題は大きいですけど、糸魚川市に住みたいという魅力を感じてるかどうかです。

先日、地方銀行の役員の方と話をしたとき、糸魚川はいいですよと、魅力いっぱいだと。食べ物おいしいし、山も海もあるし、ジオパークだし、新幹線の駅ができるでしょうと。そのとおりだと思うんですよ。この糸魚川市という魅力に対する市長の見解を、お聞かせいただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

今、若い人たちの価値観というものも、変化しつつあるのだろうとっております。交通ネットワークが整備をされることによって、以前は遊ぶ場がないというような考え方や意見があったんですが、そういった形じゃなくて、やはり働く場というところにシフトしてるんだと思いますし、また、やはり結婚される皆さん方におかれましては、子育て環境はどうなんだろうというところも関心のあるところだろうと思うわけでありまして。

そういったところも我々はやはり行政としては、しっかり位置づけしなくちゃいけないと思ってるわけでありまして。そういうこともあわせながら、今、ジオパークということで、今まで自然環境

というのは、マイナスの面が多かったのではないかなど。要するに四季のメリ張りがはっきりしていて、非常に暑さ寒さも厳しい。また、雪が降る、風が吹く、雨が降るといようなことだったんですが、しかし、それが糸魚川の特色だということで、他にはないものがあるという部分があるわけでありませう。

そういったところを我々はジオパークで再認識をし、そしてまた市民の皆様方、若い人たちも、その辺を伝えてまいったこと。そういった事柄を、我々はやはりもうちょっと明確に出さなくちゃいけないんだろうというのが、私は魅力につながるものだろうと思っております。でありますからソフト面については、我々は住環境の整備、そしてまた我々の住んでおるところは、そういった意味では自然環境がいいんだというところを、お示しをさせていただいたことが、私は少しずつ魅力に感じていただけるんでないかなどと思っております。

そのようなことで、今、後期基本計画を策定する中で、アンケート調査をする中においては、20代の人たちがこの糸魚川は住みよい、糸魚川はいいじゃないかという意見が、少しポイントが高まったということをお聞きいたしておるわけでありまして、そういったところにあらわれてきてるかなどと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先ほどの市民まるごとジオパークもそうですけど、やはりその魅力をもっともっとアピールしてもらいたいというふうに思います。本人たちが感じる問題ではあるんですけど、やはり機運を高めていくというのは大事だと思いますね。それはジオパークも十分に関係してくると。

糸魚川市のような地方の弱小都市では、公共投資に依存する産業が多い。先日の自民党青海支部の大会でも、高鳥さんも片山さつきさんもそういうふうにおっしゃっていた。平成17年度の国勢調査のデータを見ますと、最も就労割合が高いのが建設業なわけですよ。糸魚川市の建設業の就労人口は、全就労人口の16.44%です。全国の数字は8.77%ですから1.9倍もの数字になる。

これをすそ野まで入れると、建設関連まで入れると、どのような数字になるかわからないほど多くの人がかかわっている。

地方の現状をよく知らない国会議員が、といってもほとんど地方出身者なんですけどね、その人たちがコンクリートから人へという短絡きわまりないキャッチフレーズで、それをを用いて以来、地元の製造業も含めて大きな打撃を受けている。産業振興を考えるときには、ここに対する視点というのは非常に重要になってくる、この地区の特性として。これをどういうふうにして、産業振興を検討されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

私は糸魚川のこの広範囲な面積の中で自然環境を保っていくには、第1次産業が非常に大きな役割を果たしておるわけございまして、その第1次産業を支えてきたのは兼業農家という形で進めてきたわけでありまして、大きく依存しているのはやはり建設業であったと思っております。

それには今言われるように公共事業、我々のところは20年、30年前は地場産業は何かというと、災害復旧工事と言われるぐらい自然と共生する中においては、それを保全するのに、また守るためには、そういった公共事業が大切だったわけでありまして。

そういったところと、もう1つは、整備されたということではなくて、最近、糸魚川は非常に自然がやさしくなってきたんじゃないか。融雪の災害とか集中豪雨というのは最近なくなってきた、集中豪雨が来ても、ここだけは降らなかつたりしてる部分があります。雪解けの水害というのも、最近では静かに消えていくわけございまして、そういうものがなくなってきたのが、我々の災害復旧がない状況であるわけございまして。

決して、まだまだ公共事業が万全だと私は思っているわけございせん。住民の皆さん方のいろいろな要望の中においても、河川とか道路の整備というのは、大きくまだ要望が出てくるわけあります。そういうことを考えますと、その辺を我々はもっともったいたいわけございせんが、今の国の考え方は、一時的にそういう形になっているのか、これから続くのかわかりませんが、そういう状況であるわけあります。

そういったところでは我々といたしましては、まだまだ公共事業が必要だということを知らせていくような対応をしなくちゃいけないと思っているわけありますので、私といたしましては、この糸魚川の住みよい環境づくりには、建設的な公共事業がまだ必要だととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

公共事業じゃなくて、公共投資全体で考えていってほしいと思うんですけど、実際には糸魚川市の産業構造に応じた産業振興対策というのが、当然、必要になってくるわけですよ。やっぱり就労人口が高いということは、それに依存して生活している市民が多いわけですから、短絡的に公共事業がいいとか悪いとか、そういう話でなくて、やはり市民生活を守る立場で考えていって

いたいということですね。

新潟県知事が、県単公共事業の増額を打ち出しています。これに対する取り組みというのは、どうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

要するに、地元企業を育成という基本に立っていただいております。

○13番(伊藤文博君..)

市の取り組み。

○市長(米田徹君)

市の取り組みにおいても同じ考えでございまして、細かい要望にどうこたえていくかということで、県の糸魚川版みたいなような形で、小さい工事をさせていただいて、よりきめの細かいところに目をつけてさせていただいております。

今まではどちらかというと、補助金を使って大々的に将来につなげるものにもっていきたいという形で、少し小さい要望に対しては少し待っていただいた部分があるんですけども、そうじゃなくて逆にそういった細かいところに配慮を先にしていこうということで、少しスタンスを切りかえてもまいっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕..

○企画財政課長(吉岡正史君..)

前にもちょっとお答えをしておりますけれども、とにかくまず市の独自財源、これが非常に厳しくなっているということが、長期財政見通しを前にもお話ししたようになっております。特に私も財源といたしまして、市税、特にその中でも市民税、いわゆる個人の市民税というものが、平成19年度には税制改正がありまして20億円程度入っております。それで23年度は、今16億円でもって大きく市の独自財源が減ってます。

そういう中で公共事業で、今、学校耐震化とか大きいものもやっていかなきゃならないけども、地域の建設業者さんに何とかやっていていただきたいということで、大きな額は投資はできないけれども、いわゆる生活に非常に使われている道路の安全だとか、あるいは河川の安全とかという小さい修繕工事を、今、重点的にするよう公共事業に対しては予算づけをしてるということで、大きい事業については、ちょっとなかなかできないというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕…

○総務部長(織田義夫君…)

お答えを申し上げます。

新潟県のほうでは今回、新年度予算と、それから2月補正を加えて、県単公共事業については25%と大幅な増をして、地域の経済・雇用対策に一応配慮したという予算編成をしております。

じゃあ糸魚川市はどうかといいますと、先般1月に臨時議会をさせてもらって、地域活性化の交付金等を使って約2億5,000万円の予算を補正をさせてもらったと。そのうちほとんどが、こういう小さな工事ばかりであるということでもあります。なおかつ、これは新年度の予算になりますけども、新年度予算につきましては、ざっくり申しまして普通建設費が非常に大幅な増になっております。したがって、小さな工事というよりは大きい工事も非常にふえてるというのが実態であります。

そういったことで、その辺は細かい工事だけではなくて、新年度では普通建設事業費が全体に大幅な増、14%、15%の増をしてるということでもありますので、そういった建設業に配慮したという予算編成ではないんですけども、結果的にはそうなってるということで、ご理解願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私が聞いたのは、知事が県単公共事業を増額をしたものを、糸魚川市の事業にもってこんならんでしようと、県とどう連携をとるのという意味ですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長金子裕彦君登壇〕..

○商工農林水産課長(金子裕彦君..)

お答えいたします。

私の立場ですので、県で言えば農地部、農林水産部等の関係になってくるかと思っておりますけれども、私どもは県のほうへ23年度予算についての細かい事業要望を挙げております。その採択に向けて、今後ともより一層県のほうに働きかけてまいりたいと、そう思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員を

○13番(伊藤文博君)

それは知事の増額方針に応じた要望を出してるということですか。そうじゃなくて、出したら後から出てきたという話ですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君..)

お答えいたします。

県の県単というのは、当然、糸魚川市民の要望でもあるわけですが、振興局を通じながら要望を上げている部分でございますし、また、市の建設課や市の商工農林水産業課を通じて上げていってるものも多いわけでございますので、そういう中では我々といたしましては、今までの要望がかなえられなかったものは、その中で何とかかなえていただけるよう、また働きかけをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

少しでも多くの予算を、県のほうにつけてもらうようにしてください。

住民主導の地域づくりですが、これは市民の意識が重要になります。これを高めていくのは、やはり市がリードしなければいけないということになる。市民の熱意、これは熱ですから市の職員から市民への熱伝導が起きて、熱源が必要ですよ、熱というのは。それで市民の中に熱源を発する人が、出てきてもらわなきゃいけないということになるんですが、その市民意識の啓発というところで、どういうふうに今後対応していかれますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕

○総務部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

やはり地域との関係では、平成22年度、地域担当制をしきました。地域振興係を設置しまして、今は地域のほうへ一生懸命出向しているということでもあります。一緒に考え、一緒に検討するということになっております。

そうった点を踏まえて、これから地域としてどういうあり方がいいか、今度は地域をどうやって振興につなげていくかということ、これから23年度はそういった方向で、一応取りまとめをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

公民館も、もう地域コミュニティ化していくということになってますね。この条例の審査時にも、議会でもいろいろ意見が出ました。行政に深くかかわっている議会議員にしても社会教育法の枠だけにとらわれて、その地域コミュニティということが、なかなか理解してもらえないというような状況の中で、市民理解を促進していくのは大変だと思うんですけど、課長は担当課としてどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君..)

扇山生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長扇山和博君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長(扇山和博君)

お答えいたします。

新しい公民館では生涯学習、社会教育活動を中心に、そのほかにもコミュニティ、地域づくり活動の拠点として、地域の自主運営により独自の活動をやっていただく、地域の課題解消もできるということで間口を広げてきました。

やはり公民館については自主運営という部分が、大切なところだというふうに考えております。やはりその中では地区公民館、糸魚川のほうでは地区公民館の管理運営委員会というところがあります。やはりここの中で、地域のそういう部分をどうやって取り組んでいくのかというあたりを、これから検討いただくという部分が重要なんだというふうに考えております。そこについては私ども地域振興、または生涯学習が一緒になって連携をとりながら、やっていかなきゃならないというふうに考えております。

ただ青海の場合は、まだ4地区館ということで形が整備できておりません。ここについては3年かけて、地区公民館でどのような活動をしていくのか、地域づくりを行っていくのか、これから少し検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

時間がなくなってきたので、健康安心住み良いまちづくりにいきます。

日本一の子どもを育てるとも関連するんですが、糸魚川総合病院勤務者の保育について、先ほど課題として挙がっていましたが、今後どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕..

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

お医者さんも、今、富山大学では4割が女医ということ、それから看護師さんは女性が多いわけで

すが、やはり今後そういう医療従事者の確保には、この社会環境といいますか、そういう中で保育環境がやはり一番大事だというふうに言われてます。

そんな中で、糸病でもいろいろ検討はしておるそうなのですが、独自で糸病で保育所運営というのは、ちょっとなかなか難しいようございますので、行政と一体となる形で、いろんな保育の形態がありますが、今後はこども課等とも検討しまして、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先日、委員会でも医師数、看護師数の今後の課題というのも数字で上がっていましたが、その数字は今いいんですけど、修学費用貸与事業だけでなく全体の生活環境の整備について、やっぱりこれを整えていかないと。ああ、糸病はこういうふうに整っているから働きたいと思ってもらう環境を整えていかないと。保育もその1つなんですけど、全体的にもう少し広げて、どのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕..

○健康増進課長(伊奈晃君..)

生活環境といいますか、今言った保育、子育て環境のほかに住居の環境だとか教育環境、特にお医者さんになりますと、赴任する先の教育環境がどうかとかいうのが、かなり大きな問題のようございます。あと福利厚生とか交通事情というのも、今後ますます重要になってくる。新幹線開業によりまして富山との距離、あるいは東京からの距離が近くなるということで、医師確保、あるいは看護師確保については、メリットになるのかなというふうに考えております。

これらについてもなかなか難しい問題なんですけど、今後また協議しながら検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

補足して説明させていただきますが、基本的にはそういう形になっておるわけでございます。

そういう状況であるわけでありますが、医師に関しては非常に好評をいただいております。糸魚川は他に比べていいという、今、先生方の意向だということ、大学の派遣しておる教授のほうからお声をいただいております。

ただ、問題は看護師のほうの状況の中から、保育の環境をどのようにしていけばいいかというのが大きな問題だろうということなんですが、今、糸魚川総合病院さんのほうでは、その中でもって何か取りまとめをしながら、調査をしとるみたいであるわけでございまして、そのような結果が出次第、我々といたしましても考え方も織りませながら、その対応をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

日本一の子どもをはぐくむと絡むんですが、糸魚川市の教育レベルと医師確保の関係ですね。さつき課長もちょっと教育問題があるといいますか、これの関連について、どういうふう考えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

竹田教育長。〔教育長竹田正光君登壇〕..

○教育長(竹田正光君)

お答えいたします。

市長のお話の中にありました大学教授の評判は非常にいいという話もありますが、糸魚川市の学力を上げることが、まず、重要なポイントであると思います。市内の学力向上によって、医師が派遣先を選ぶというようなこともあるのではないかと。そういう医師の期待にこたえられるようにしていくのも、教育委員会としては学力を上げることが、重要なことだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

結局、日本一の子どもを育てる政策が、医療問題にも発展していくということですよ。頑張ってもらいたいと思いますが、今回の救急外来病棟増設について効果といいますかね、今の医師、従事者確保についての効果はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

この今回の救急外来棟の増築ですが、糸病としては2つの目的がございます。1つは、救急外来が狭いということ、病院全体が狭くなっているということの解消。もう1つは臨床研修病院として、いろいろな若いお医者さんに来ていただくためにも、そういうハード的な設備が非常に重要になってくるということで、今回増集計画を立てたということでございます。将来的には医師確保に向けて、大きなものになるというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その個々の政策が、総体的にいい方向へ向かっていくように進めていただきたいと思います。

予防医療の充実について伺います。

フクチン接種で、兵庫県などで死亡者が出ましたよね。糸魚川市の対応はどうなりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

轟本こども課長。〔教育委員会こども課長露本修一君登壇〕..

○教育委員会こども課長(靄本修一君)

金曜日の夜中に厚生労働省、県を通じまして、ファクスの緊急連絡が入りまして、土曜日の朝、その内容を確認させていただいて、いち早く担当課の係のほうから関係医療機関に、しばらくの間、要するにワクチン関係の接種を見合わせるようにというような指示をいただきました。土曜日、あちこちに緊急連絡的に医療機関に連絡をとりまして、精いっぱいその連絡をとにかく早く周知するように努力して、連絡のほうを完了しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君...)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

子宮頸がんワクチンの不足により、出荷制限の話がありますが、これに対する対応はどうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

昨年の国の補正予算で、中学1年から高校1年までということで始めたわけですが、当初、製薬会社も十分な数のワクチンが対応できるというふうにもくろんでおったんですが、やはり実際やってみますと、かなり全国的に相当な数の方が受けておられるということで、今、不足している状態でございます。

この解消は、新年度の7月ごろになるんでないかというふうに聞いております。今、当市では高校1年生のみということでやっておりますが、1回目も打てないような状況になっております。これにつきましても国のほうも、当初、今年度1回打てば、2回目、3回目、来年度以降も補助しますよということでありましたが、1回目を打てない状況ですので、これにつきましては新年度に入って1回目を打っても補助の対象になりますよという通知が来ました。これにつきましては、これから個別通知で対象者の方に通知をさせてもらって、今年度はちょっと打てませんという状況を通知したいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

助成の対象になるということも含めてですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕..

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

そのとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

次、いきます。

情報基盤整備を活用した生活利便性向上のところで、市民厚生常任委員会で火葬場について視察を行ったときも、24時間仮予約システムを行わないと言っておったものを、行政ネットワークの中で、検討すべきということになりました。あらゆる行政の場で、活用していくという共通認識ができているんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長

(倉又稔君..)

田鹿総務課長。〔総務課長田鹿茂樹君登壇〕..

○総務課長(田鹿茂樹君..)

お答え申し上げます。

庁内ICT利活用検討委員会の中では、今の火葬場の予約関係も検討しております。庁内委員として

は、行政手続、健康福祉、教育、市民生活などの各分野に係る職員26名に入ってもらいまして、2月末までに4回ほどこの委員会を開催し、各分野における現状とそれから課題、問題点を、市民サービスの向上という観点から、それぞれ検討項目とした29項目、これは委員がそれぞれの分野から、こういうものを検討していきましようということで挙げたものが29項目でございます。これをシステム化の実現性や費用対効果、さらには個人情報保護、情報の公平性などの観点から、さまざまな角度から今現在まだ検討しております。

実現性のあるものとしては、火葬場の予約システム、さらには施設スケジュール管理、教育相談システム、ひとり暮らし高齢者安否確認システム等々、これらをとにかく4月以降、できるものからやっていきたいということで、今、鋭意取り組んでおりますし、4月以降も庁内委員会は活動していく予定にしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

最後、処分場ですが、迷惑施設である施設に対する地元還元ということも必要になってるんですね、地元対応はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金平環境生活課長。〔環境生活課長金平美鈴君登壇〕..

○環境生活課長(金平美鈴君)

お答えいたします。

最終処分場を受け入れていただいている大野区の皆様には、現在の処分場が水銀問題から、さらに今度は保有水等の課題によりまして、廃棄物を埋め立てないほうがよいという判断がなされ、その上でさらに先日、新たに処分場を増設させてほしいというお願いをしたものでございます。このことによりまして、再度、大野地区の皆様には、ご心配をおかけすることになるわけでございます。

したがいまして市といたしましては、十分誠意をもっておこたえしていこうというふうに考えております。

①13番(伊藤文博君)

地元還元はどうかと聞いたんだけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

金平環境生活課長。〔環境生活課長金平美鈴君登壇〕..

○環境生活課長(金平美鈴君)

大野地区には幾つかの課題がありまして、それにつきましては、それぞれの担当する部署におきまして対応、検討しているところでございます。

引き続き市長を先頭にして、この問題について対処してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

前向きな検討をお願いします。ありがとうございました。